

■発行／南方熊楠顕彰会

〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
http://www.minakata.org/ 〈E-mail〉 minakata@mb.aikis.or.jp

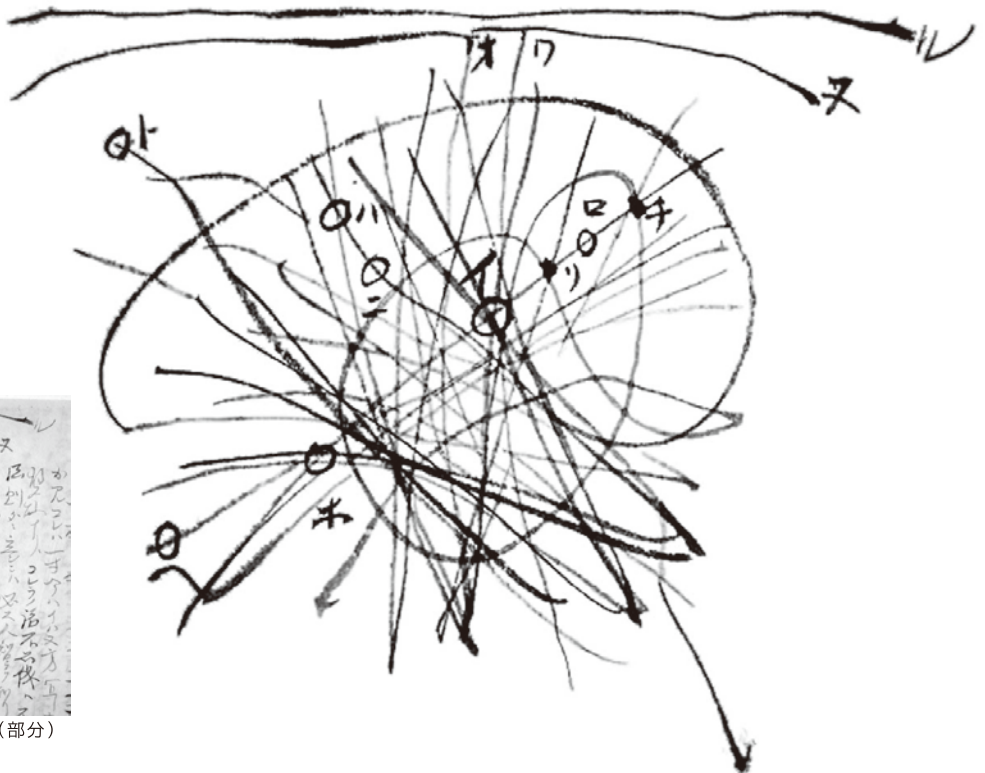
自筆資料に見る南方熊楠……………②

南方マンダラと呼ばれる図

文／松居竜五（南方熊楠顕彰会理事・龍谷大学准教授）



1903年7月18日付土宜法龍宛書簡(部分)



南方熊楠の1903年7月18日付け土宜法龍宛書簡に見られるこの図は、「南方マンダラ」と呼ばれ、しばしば彼の世界観の根幹をなすと考えられてきた。ただし、実際には、熊楠自身が「小生の曼荼羅」と呼んでいるものはこの図ではない。この図は「南方マンダラ」そのものと言うよりは、熊楠の法龍宛書簡に書き続けられた壮大な「南方マンダラ」思想の一部と考えた方がよい。

この図のイメージを考える上で、重要なポイントがいくつかある。一つは、熊楠自身が「図は平面にしか画きえず。実は長、幅の外に、厚さもある立体のものと見よ」と言うように、これが本来は平面としてではなく「空間」として考えられていることである。この図は人間から見た世界のありさまを示そうとしたものであり、それは当然ながら、私たち人間が生きている上下左右に奥行きのある空間をモデル化したものということになる。

重要なポイントの二つ目は、まるでパフォーマンスアートのような熊楠の激しい筆遣いが言外に示している「動き」で

ある。毛筆で一気に描かれたと思われる一つ一つの線は、その瞬間の熊楠の筆の躍動感を内包しており、その結果この「マンダラ」は、まるでそれぞれの細部が複雑な変化をしている最中であるように見える。これは、おそらく熊楠自身が意図していたことで、世界のイメージを静的なものではなく、動的なものとしてこの図に描き込もうとしたのであろう。

さらに、この図の中に描かれた一本一本の曲線が、それぞれに絡み合っただけでなく、ある種の芸術作品のように見るものの精神に直接に訴えかけるような力を持っている。その意味で、鶴見和子以来、この図が熊楠の膨大な知的活動の一つの頂点としてとらえられてきたことは、あなたが誇張とは言えないところがある。土宜法龍もまた、返信にあたる8月4日付の書簡では、この図に示された思想に対して「至上の宝物なり」という絶賛の言葉を書き付けている。

ともかく、この図はその哲学的な内容

だけでなく、ある種の芸術作品のように見るものの精神に直接に訴えかけるような力を持っている。その意味で、鶴見和子以来、この図が熊楠の膨大な知的活動の一つの頂点としてとらえられてきたことは、あなたが誇張とは言えないところがある。土宜法龍もまた、返信にあたる8月4日付の書簡では、この図に示された思想に対して「至上の宝物なり」という絶賛の言葉を書き付けている。

CONTENTS

第18回南方熊楠賞 受賞者決まる	… 2
南方熊楠ゼミナール 研究発表、シンポジウム	… 3
南方熊楠の湯⑦ 安田忠典	…24
南方熊楠を知ろうシリーズ!!	
第1回講演会 田村義也	…27
第2回講演会 川島昭夫	…31
「熊楠」生物覚え書⑥ 土永知子	…40
熊楠ゆかりの地を訪ねる 中瀬喜陽	…41
書評 濱岸宏一、志村真幸、土永浩史	…42
第4回特別企画展 ごあんない	…44
熊楠ワークスバックナンバー一覧	…46